津山城百聞録

59 津山城備中櫓9 ～「御茶席」と「狭間」～

備中櫓の復元整備工事も完成を間近に控え、今回は内部の特異な施設である「御茶席」に注目してみます。

御茶席（以下、茶席といいます）は、この備中櫓復元の根拠の１つとなった「御城御座敷向惣絵図」に「七畳」と記されていることから、東面北側面の一部を板敷とした７畳敷として復元しました（図１）。

▲図１「御茶席」復元平面図

ここから先はやや専門的な話になりますが、絵図には北面東側間に「クグリ」、東面南側間に引き違い襖と２か所の入り口しか描かれていません。前者が茶道口と給仕口を兼ね、後者が客人の入り口となります。

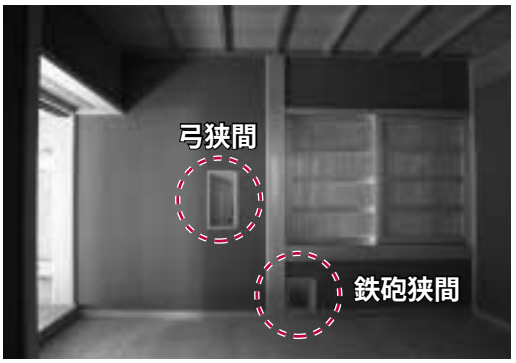
７畳の茶席では８畳分のうち一画を１畳床とする例が多いのですが、先ほど見た板敷部分は茶道口の間近で、上手にはなり得ません。そのため、動線を考えれば西面南側間を床に見立てるほかありません。これらの装置の配置をもとに畳の敷き方と着座場所を想定したのが図１です。

このように手前座は北面の西側間となりますが、この場合は逆勝手となります。また、南西部分の畳敷が床差しとなりますが、これもやむを得ない処理です。

このように、全体に定石にのっとらない要素が多く認められるのは、櫓という限られた空間の中に茶席を設置したためと思われます。

なお、図１を見ると、茶席の下側、つまり南側に出格子の半分が見えています。これは１階南面中央の出格子です。

備中櫓を外側から見ると、この出格子の周りには弓狭間と鉄砲狭間があります。内部からは写真１のように見えます。



▲写真1「御茶席」南面の壁

茶室の壁は数寄屋風の仕上げとなっている反面、その壁面にはごつい出格子窓があり、その下に鉄砲狭間、横には弓狭間が取り付けられています。これらの狭間は言うまでもなく戦闘のための施設であり、茶室には最もふさわしくないものです。しかしながら、この部分だけ狭間を取り付けないと外観上非常にバランスの崩れたものとなりますし、櫓という戦闘施設では欠くことのできない装備だったものと思われます。

このように、茶室の配置といい、その中に狭間などを備えていることといい、櫓という施設の中に茶室を設置した先人の苦労がしのばれます。

編集後記

■半世紀分の広報つやまを収めたデータベースが完成！キーワードで検索・閲覧できるようになりました（22ページに関連記事）。「野草」で引いてみると、10年前に掲載したカタクリ群生地保護活動の記事がヒット。ぜひご活用ください。（X）

■本紙でも紹介していますが、合併と同時に市ホームページも一新。現在大わらわで準備中です。そして、この広報つやまも来月号からリニューアル。わかりやすく親しみやすい広報紙をめざしていますので、こちらもどうぞお楽しみに。（e）

■市役所では、2月28日の合併に向けて慌しく準備が進んでいます。配置換えはその1つ。市役所にお越しのときは、確認をお願いします。私たちの課も少しだけ動きます。この機会に散らかっている机の周りが少しだけきれいになるかも…。（郁）

ひとの動き

（１月１日現在）

人口	90,227 人（前月比△52）
男	43,043 人（同△37）
女	47,184 人（同△15）
世帯数	35,204世帯（同△37）

12月中の異動数

出生	86人、死亡 80人
転入	176人、転出 234人

2月 2005

編集・発行　津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
TEL0868-23-2111（代）32-2029（直通）FAX0868-32-2152
Eメール　kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ　http://www.city.tsuyama.okayama.jp/
（PDFファイルで全紙面を掲載しています）
発行日　毎月10日
印刷　株式会社　廣陽本社

PRINTED WITH SOY INK　R100
広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。